

新民協第139号

令和6年6月27日

区自治協議会会長 各位

新潟市長 中原 八一

(担当 市民生活部 市民協働課)

区自治協議会会長会議資料の送付について

時下、貴職におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、先般ご案内しました令和6年度第1回区自治協議会会長会議の資料について下記のとおり送付いたします。

記

1 送付資料

(1) 次第

(2) 資料 1 : 令和6年度 新潟市区自治協議会 全体委員研修会の記録

(3) 資料 2 : 第9期振り返り資料の方向性について

(4) 参考資料 1 : 令和6年度各区自治協提案事業一覧表

(5) 参考資料 2 : 令和6年度会議体設置状況一覧表

2 その他

○当日は本資料一式をご持参くださいますようお願いいたします。

○資料は当日に差し替えの可能性がありますことをご了承ください。

○本市では、地球温暖化対策の一環として夏季の軽装を励行しております。

当日は、クールビズでお越しくください。

【問い合わせ先】 区自治協議会会長会議事務局

〒951-8550 新潟市中央区学校町通一番町 602 番地 1

新潟市 市民生活部 市民協働課 田中、渡部

TEL 025-226-1102 (直通) FAX 025-228-2230

E-mail shiminkyodo@city.niigata.lg.jp

令和6年度第1回 区自治協議会会長会議

次 第

日時：令和6年7月9日（火）
午前10時30分から
会場：市役所本館3階 対策室2・3

1 開会

2 議題

- (1) 令和6年度全体委員研修会の振り返り（報告）
- (2) 第9期振り返り資料の方向性について（意見交換）
- (3) 各区自治協議会の運営状況、提案事業の進捗状況について（情報共有）

3 閉会

【資料】

資料 1：令和6年度 新潟市区自治協議会 全体委員研修会の記録

資料 2：第9期振り返り資料の方向性について

参考資料 1：令和6年度各区自治協提案事業一覧表

参考資料 2：令和6年度会議体設置状況一覧表

令和6年度 新潟市区自治協議会
全体委員研修会の記録

新潟市市民生活部
市民協働課

目 次

1	開催概要	1
2	分科会（意見交換）における主な意見	3
3	研修後アンケート結果	10

1 開催概要

【目的】

令和6年能登半島地震を経て、災害に対する日頃の備えや発災時の迅速な判断と行動の重要性を改めて認識したことから、防災をテーマに「市民と市との協働の要」である区自治協議会が、地域の代表として、区民の防災意識の更なる向上を目的に実施

【概要】

○開催日時・会場

- ・日時：令和6年5月10日（金） 13:30～16:15
- ・会場：東区プラザ（新潟市東区下木戸1丁目4番1号）

○プログラム

1 事例発表

- ・代表区より、防災に関する取組事例を発表

区	発表事例（第9期自治協提案事業）	発表者
秋葉区	防災講演会 「土砂災害の現状と自然災害に対する自治会長の心構え」	青木 貞義 様
西区	自然災害に備える！西区版アワータイムラインの作成	古俣 和博 様
西蒲区	西蒲区防災啓発事業（防災講演会・防災演劇）	吉田 金豊 様

秋葉区「防災講演会」



西区「アワータイムラインの作成」

「自分の避難行動計画」



西蒲区「防災演劇」



2 分科会（意見交換）

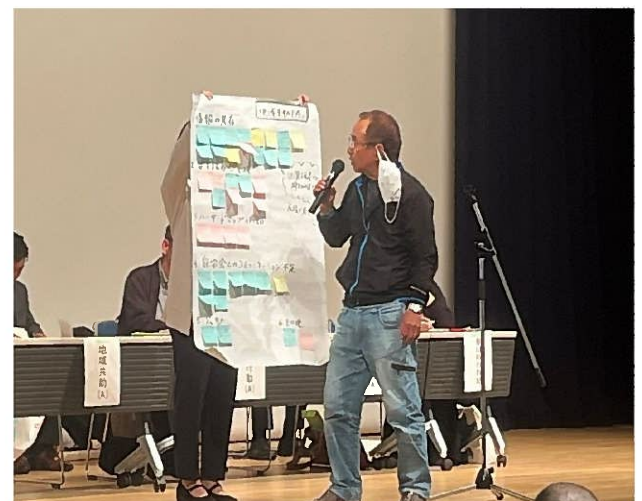
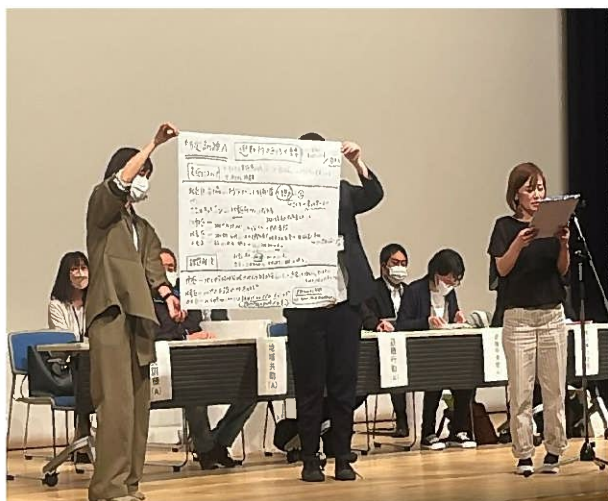
- ・令和6年能登半島地震を受けて、「地震」に関する各テーマで意見交換を実施
- ・多様な意見を共有し、今後の活動の参考としていただくことを目的に実施

分科会テーマ（グループ）		話題（例）
平時	防災訓練 （A・B）	<ul style="list-style-type: none"> ・多世代から参加してもらうための工夫 ・実効性を高めるための工夫 など
	地域共助 （A・B・C）	<ul style="list-style-type: none"> ・避難行動要支援者（高齢者、障がい者など）との関係づくり ・地域で行う備え、個人で行う備え（備蓄等） ・津波ハザードマップの活用や地域における伝達方法 など
発災時	避難行動 （A・B）	<ul style="list-style-type: none"> ・避難の判断基準や必要な行動 ・携行品や避難手段（徒歩）における注意点 など
	避難所運営 （A・B・C）	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所の運営方法 ・要配慮者（高齢者、障がい者、乳幼児、妊婦）への支援 ・長期化した際に必要となる対応 など
復旧時	復旧時の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・災害による地域課題や住民のニーズ把握 ・市民と行政をつなぐ「要」としての役割 など



3 全体共有

- ・代表分科会（各テーマから1分科会）より、意見交換の概要を全体に共有



○参加者

1 当日参加者 128名

(区別内訳)

(人)

北 区	東 区	中央区	江南区	秋葉区	南 区	西 区	西蒲区	合 計
16 (30)	21 (32)	21 (32)	18(30)	14(29)	10(30)	11 (36)	17(30)	128(249)

※()内は R6. 5. 1 時点の各区自治協議会委員数

2 分科会参加者内訳

(区別内訳)

(人)

分科会 テーマ	区								合計
	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	
防災訓練	1	2	3	4	4	2	5	4	25
地域共助	5	9	1	5	4	1	3	5	33
避難行動	5	4	5	1	2	1	2	2	22
避難所運営	4	2	9	7	3	6	1	3	35
復旧時の取組	1	4	3	1	1	0	0	3	13
合計	16	21	21	18	14	10	11	17	128

2 分科会（意見交換）における主な意見

各分科会における意見交換の内容について、模造紙や書記係のメモをもとに、主な意見を掲載します。※内容については当課の方で類似意見の集約・要約をしています

【防災訓練（A）】

キーワード	主な意見
課題	<ul style="list-style-type: none"> ● そもそも防災訓練の実施率が低い ● 学校単位では行っているが、自治会ではノウハウが無く実施が難しい ● 内容のマンネリ化 ● 避難所にキーBOX が設置されるため、誰でもすぐに開錠できるように備えておくなど、避難所開設の訓練が必要
各区の取組状況	<p><北区></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 令和3・4年度に自治協提案事業で防災イベント「目指せ防災力向上！」を開催し、子どもが楽しく学べる体験が高評価だった <p><東区></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 昨年「防災・安心安全フェスタ」を開催し、災害救助車の展示やちびっこ消防隊（子ども用防火衣をつけての写真撮影）など、子どもに少しでも興味をもってもらうことが重要 <p><中央区></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 毎年10・11月頃に開催した経験が活かされ、能登半島地震の際はお年寄りがスムーズに避難することができた

キーワード	主な意見
各区の取組状況	<p><江南区></p> <ul style="list-style-type: none"> ● コロナが収束してきたので、これからイベントを開催予定 <p><秋葉区></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 令和3年に荻川で、おもちゃの物々交換（かえっこ）と、楽しくアレンジした防災プログラムを組み合わせた防災イベント「イザ！カエルキャラバン」を実施した。防災訓練に「体験する」楽しさを加え、地域の防災力を向上させていくことが大切 <p><西区></p> <p>22自治会の3分の1に出張講座を開催</p>
課題解決に向けた方向性	<ul style="list-style-type: none"> ● 避難所開設の訓練や避難所のあり方検討が必要 ● ハザードマップの確認等の自助の意識向上 ● 子ども連れの家族が防災訓練やイベントに参加することが大事 ● 子どもの参加については、親世代へのアプローチが鍵となる

【防災訓練（B）】

キーワード	主な意見
能登半島地震の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ● 避難訓練と実際では全然違う。今回は津波警報が出たので、避難者が一齐に上階へ避難し、決めておいた区画も全然守られていなかった ● 受付カードも作っている余裕がなかった ● 暖房や具合の悪い人の対応など避難訓練の際に想定されていないことが多かった
避難訓練	<ul style="list-style-type: none"> ● どんな防災なのか？具体的な災害を想定してより実際に見合った訓練にすることが必要 ● 地盤が強いため関心が低いのか、訓練に人が集まらない ● 自治会やコミ協ごとに意識が違い、訓練にも温度差が出ている ● 何を想定した訓練なのかよく分からないというのが大問題
地域を知る	<ul style="list-style-type: none"> ● どのような災害が想定されるのか、まずは自分の住む地域を知ることが大切
今後の訓練に想定すべきこと	<ul style="list-style-type: none"> ● 日中、小中学生が学校にいる間に地震が起こった場合、子どもたち自身で身を守るよう訓練する必要がある。誰がリーダーとして率先していくのか考える機会も必要 ● 部分的ではなく初動対応から長期化した場合の避難所運営まで一貫した訓練を行い、避難者が誰でも対応できるようにしておく ● 小学校では年に4回様々なシチュエーションで訓練を実施しているため意識は高い。どのように親世代を巻き込んでいくかが重要 ● 避難行動要支援者に関する情報共有や避難時の対応方法を考える ● 避難訓練以前に、自分の地域で起こりえる災害の想定を明確にする

【地域共助（A）】

キーワード	主な意見
情報の共有	<ul style="list-style-type: none"> ● 自治会・町内会の行事に参加し、情報を共有する ● 近所で何かあった時にお互いに支え合える関係をつくる ● 地域の方々と顔の見える付き合い、声を掛け合える距離感を心掛けることが共助につながる ● 回覧板等での周知が大切
要支援者への支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者・障がい者への支援を地域に意識づける ● 避難行動要支援者の確認 ● 引きこもりの若年層はどこに避難するべきなのか ● 障がいの特性に応じた対応を心掛ける ● 緊急避難に対する地域住民の心構えが不足している ● 緊急時における要支援者への周知が重要
ハザードマップの周知	<ul style="list-style-type: none"> ● 緊急避難場所に関するマニュアルに不備がある ● ハザードマップの活用方法が地域住民に知られていない ● 避難する合図やレベル感、どの程度ならどこに逃げるべきなのか判断基準を確認すべき
自治会とのコミュニケーション不足	<ul style="list-style-type: none"> ● 日頃からボランティア活動などに積極的に参加する ● 避難訓練に参加し、役割分担や自分達にできることを確認する ● 近所の付き合いがないことが原因 ● 日頃からの多世代交流が大切 ● 相談できる関係性をつくることが大切 ● 役割分担の徹底、一人に集中させない
公助	<ul style="list-style-type: none"> ● 自治会、コミ協、包括など地域の各機関とつながりを深める
備蓄	<ul style="list-style-type: none"> ● 自治会で多少の備蓄品の用意が必要 ● 必要な備蓄品は各家庭で用意しておくことが重要

【地域共助（B）】

キーワード	主な意見
地域の備え	<ul style="list-style-type: none"> ● ハザードマップを自治会回覧に ● 子ども向けの防災訓練実施 ● 要支援者を名簿等で把握 ● 学校の防災訓練に地域（自治会）が参加する
個人の備え	<ul style="list-style-type: none"> ● 避難所の備蓄物資に頼るのではなく、必要な物資は個人で用意する ● 地域の祭りや親睦会などに参加し、顔の見える関係性をつくる ● 避難所運営訓練の継続「これをやればよい」という考え方を改善する

【地域共助（C）】

キーワード	主な意見
コミュニティ （地域力）	<ul style="list-style-type: none"> ● 日常的な交流と関係づくりが大事 ● 日頃のつながりの中でコミュニティをまとめていく人が必要 ● 自治協やコミ協がプラットフォームとして、地域のつながりを広げ、課題は各団体や地域に持ち帰り、地域力を高めていく
要支援者	<ul style="list-style-type: none"> ● 要支援者と誰が一緒に行動するのかを考える ● 要支援者がどのようなサポートをしてほしいのか把握しておく ● 要支援者・要配慮者の状況に応じた避難場所を考える
備え	<ul style="list-style-type: none"> ● 自然災害の種別により、事前に避難行動をハザードマップから想定し、地域で共有しておく ● 地域と子ども達の普段からの交流 ● 学校での避難訓練の見直し ● 個人情報保護の壁があり、要支援者に関する情報共有が難しい ● 地域の行事を積極的に開催し、顔の見える関係性をつくる
防災教育	<ul style="list-style-type: none"> ● 防災手帳、防災ゲーム、キャンプなど遊びながら防災知識を学べるような多世代へのアプローチが必要

【避難行動（A）】

キーワード	主な意見
能登半島地震の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の中でも危機感に差があり、避難しない方が一定数いる ● 近くに丈夫な建物がなく、手狭な避難場所に人が殺到した ● そもそも避難場所が分からない ● 津波警報発表時、自治会にどのように働きかければよいのか迷った ● 近所の老人憩の家を緊急避難場所として開設した ● 年配者は動きたくない人が多く、避難所への誘導に手を焼いた ● 町内の老人世帯を中心に声掛けを手分けして行った ● 車で避難してくる人が多かった ● 地域によって津波の被害の有無が異なるのに、同じ情報で一律に避難してしまうことが課題 ● テレビの地震情報に困った。誰に対して発信しているのか分からず、避難すべきか不安になった
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の指定避難場所に囚われずに逃げる ● 避難場所の収容能力に地域差がある。代替地を検討してほしい ● マンションなどへの近隣住民の受入 ● まずはハザードマップを見るなど避難行動の必要性を冷静に判断する ● 要支援者への対応については取組の対策が不十分 ● 避難訓練において本番の意識が低い

【避難行動（B）】

キーワード	主な意見
能登半島地震の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ● どこに避難すればよいか分からなかった ● ハザードマップの見方が分からず、実際の行動が分からない ● 元日だったため家族の安否確認がスムーズにできた ● マンションへ避難した人もいた。津波の場合は、近隣のマンションやビルに逃げ込むことも1つの選択肢だと思った ● 要支援者への対応ができていなかった ● いつまで避難所にいるべきなのか情報が入ってこない ● 避難所と津波の際の避難場所（高い所）のどちらに避難すればよいのか分からなかった
判断・情報	<ul style="list-style-type: none"> ● 新潟市公式 LINE が含む情報が現実の地名に当てはまらない ● 災害の種別によってどこが避難所に指定されているのか分からない ● 避難所の開設基準が分からない

【避難所運営 (A)】

キーワード	主な意見
避難所運営	<ul style="list-style-type: none"> ● 避難所運営の事前訓練が必要 ● 津波予想に基づく避難所運営は難しい ● 避難所運営方法について、今までの組織体制でよかったのか検証報告していただきたい ● 要支援者に対して情報共有ができない。 ● 要支援者や要配慮者向けのスペース確保が必要 ● 防災士を育成して一人でも多く避難所運営のリーダー格を増やす
避難場所	<ul style="list-style-type: none"> ● 津波の時の避難場所が分からない ● 避難所、一次避難所、津波避難ビルの違いが分からない ● 海拔0m地帯の地域では、体育館が使えなくなるため、今後の水害に備えて避難先を検討すべき

【避難所運営 (B)】

キーワード	主な意見
避難所の開閉	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校が避難所に指定されている場合は誰が開けるのか ● 避難所を開設する基準が複雑で分からない ● 避難所を閉めるタイミングは誰がどのような基準で決めるのか
避難所運営委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 避難所運営委員には、要支援者、子育て世代の女性、高齢者などから幅広く参加してもらっているのか ● 避難所運営委員の立ち位置をはっきりさせてほしい ● インセンティブをつけて立ち上げ指導を強化する必要がある
避難所運営	<ul style="list-style-type: none"> ● 避難者カードは初動では間に合わず機能しない ● 避難者の帰宅は誰が判断するのか ● 障がい者や高齢者が階段を上る避難方法は今後の課題 ● 備蓄物資が1階の体育館にあることは問題だと思う ● 学校関係者が来ないと教務室を開けることができないため、体調不良者が出た際に保健室を使用できない
能登半島地震の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ● 市職員が来てくれなかったため、運営方法が分からなかった ● 市職員が来なかったため備蓄の開封を迷い、毛布や水の配布が遅れた ● 避難所（小学校）の設備が不十分で冬だと寒さで体調不良になる ● 避難所内で家族とはぐれてしまった高齢者がいた ● 津波警報が出ていたため、帰宅を勧めることができず対応に困った ● 足の悪い高齢者を乗せた車が避難所の入口付近で停車した際に、他の避難者から怒鳴られていた。車で避難所まで移動することは良くないことなのか疑問に思った

【避難所運営（C）】

キーワード	主な意見
能登半島地震の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ● 避難所に土足で入ってよいのか迷っている人がいた ● 学校関係者が来ないと設備の使い方が分からない ● 一時的に避難が殺到して人数把握ができなかった ● 避難者カードの作成はできないと思う ● 備蓄が圧倒的に足りない（食料、女性用品、赤ちゃん、介護）
避難所の中での課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 防災士の人がいるとよい ● 情報伝達機器の配備が必要 ● 学校の管理者が到着しなくても運営できるように訓練しておくべき ● 中高生や若い人の力を活用したい ● 情報収集のために避難所内に掲示板を早い段階で設置するべき ● 授乳室の確保 ● 動物（ペット）の避難場所の確保 ● 要配慮者や女性が安心して避難できる仕組みを避難所につくる ● トイレ問題、セクハラ、盗難対策をどのようにしていくか
避難所の外での課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 避難所運営は市役所がやるものだと思っている人が多い ● 要支援者の情報把握 ● 避難所運営委員を各自治会で3～5名選任しておくことが必要 ● 連絡網を作成しグループを作る ● 避難所の場所が周知されていない。防災の取組をしていない地域もあるため、取組を広めることも重要
行政の役割	<ul style="list-style-type: none"> ● 防災教育の推進 ● 行政と民間の役割分担 ● 避難所の備蓄品の情報確認 ● 福祉避難所が少ない

【復旧時の取組】

キーワード	主な意見
災害による地域課題や住民ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ● 個々の生活を復旧させていくことが、地域の復旧につながる ● 公益サービス、学校、病院などライフラインの復旧が進まないと家族の復旧が始まらない ● 液状化の地盤復旧は地域全体で取り組む必要がある
情報共有	<ul style="list-style-type: none"> ● 国や県、市の補助金など復旧に向けた支援策を知らないことが不安につながるため、復旧時において情報の取得と共有は大切
心のケア	<ul style="list-style-type: none"> ● 被災したことで前向きな気持ちになれないと思う ● 住民のつながりを通じて被災者の心をケア ● 地域の支え合いセンターの活用、推進員の配置
市民と行政をつなぐ「要」としての役割	<ul style="list-style-type: none"> ● 復旧時の地域をまとめていくリーダーが重要 ● 地域のリーダーをどのように育成していくかが課題

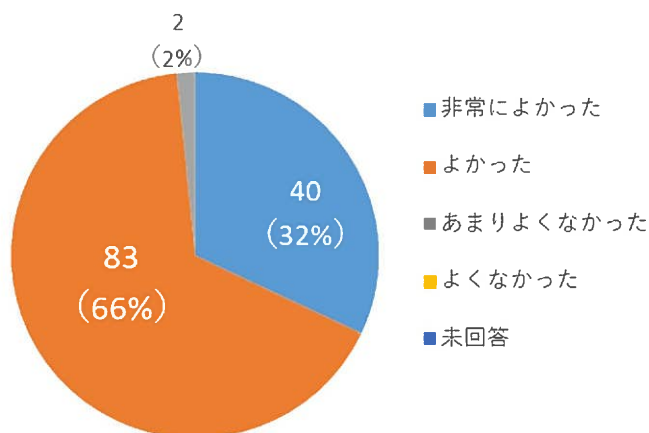
3 研修後アンケート結果

回収率：98%（回答者数 125 名）

本日の研修会の内容はいかがでしたか？

・非常によかった	40 件
・よかった	83 件
・あまりよくなかった	2 件
・よくなかった	0 件
・未回答	0 件

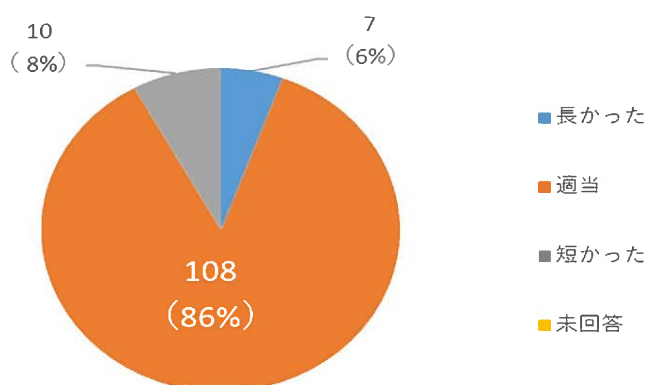
約9割が「非常によかった」又は「よかった」と回答



研修会の所要時間はいかがでしたか？

・長かった	7 件
・適当	108 件
・短かった	10 件
・未回答	0 件

約8割が「適当」と回答



時間を短縮してもよいと思うプログラムを1つ選択してください。
（研修会の所要時間について、「長かった」と回答した方のみ）

・事例発表	1 件
・分科会	4 件
・全体共有	1 件
・未回答	1 件

「事例発表」を選択した主な理由

- ・資料を読んで大体理解できる
- ・分科会の時間が少なすぎると感じた

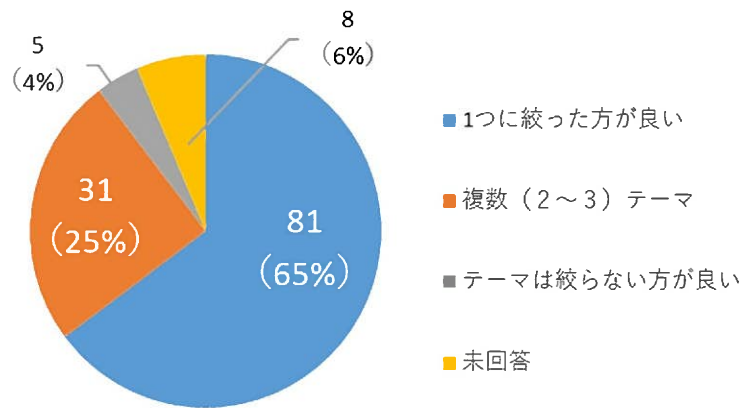
「分科会」を選択した主な理由

- ・意見が早々に活発に出たので、もう少し短くてもよい
- ・建設的な話し合いや新しいものの見方を期待していたが、愚痴や若い人（30～50代）への不満が多かった
- ・何について話をするのか絞るべき

今回は防災にテーマを絞って実施しましたが、テーマ設定についてはいかがでしたか？

約6割が「1つに絞った方がよい」と回答

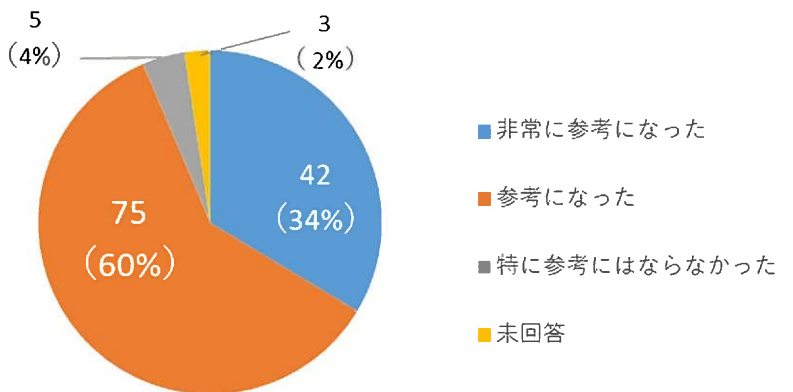
- 1つに絞った方がよい 81件
- 複数（2～3テーマ） 31件
- 絞らない方がよい 5件
- 未回答 8件



事例発表や分科会の内容は、ご自身の区にとって参考になりましたか？

約9割が「非常に参考になった」又は「参考になった」と回答

- 非常に参考になった 42件
- 参考になった 75件
- 特に参考にはならなかった 5件
- 未回答 3件

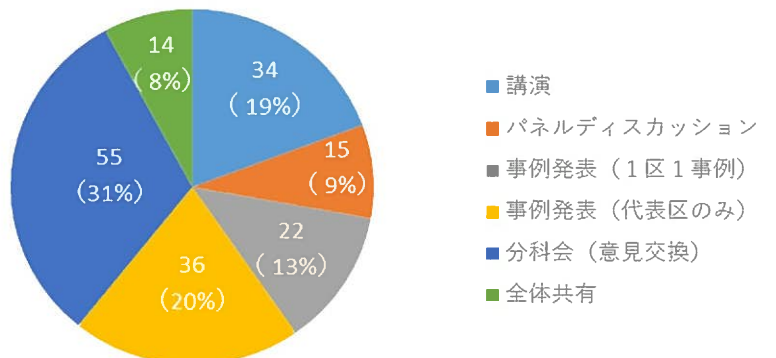


次年度の研修会はどのようなプログラムが必要だと思いますか？（第2希望まで回答）

- 講演 34件
- パネルディスカッション 15件
- 事例発表（1区1事例） 22件
- 事例発表（代表区のみ） 36件
- 分科会（意見交換） 55件
- 全体共有 14件
- その他 0件

第1希望の回答数

分科会（意見交換）：26件 講演：21件
 事例発表（代表区のみ）：19件
 事例発表（1区1事例）：16件
 パネルディスカッション：7件 全体共有：1件



※上記の回答件数は、第1希望と第2希望の合計値

次回の研修会でテーマを設定する場合、取り扱ってほしいテーマの番号を第3希望までご回答ください。（下記の回答件数は、第1希望～第3希望までの合計値）

	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	区名 未記入	合計
防犯	1	2	1	1	1	0	0	0	0	6
防災	8	4	4	9	6	3	3	4	0	41
交通安全	0	2	0	0	0	0	0	1	0	3
高齢者 支援	5	9	3	3	3	1	3	3	0	30
子育て 教育	5	5	2	3	4	1	2	7	1	30
環境	1	2	2	3	1	2	1	1	0	13
商工 産業	0	1	0	4	0	1	0	0	0	6
地域 交通	3	3	5	8	6	2	2	1	1	31
賑わい 創出	3	3	3	5	2	3	1	3	0	23
魅力 発掘・発信	6	5	1	8	1	4	2	2	0	29
空き家	2	7	2	6	4	2	4	6	1	34
文化 活動	0	3	0	1	2	0	2	1	0	9
スポーツ 活動	1	0	0	0	1	0	0	2	0	4
移住 促進	1	2	1	0	2	1	1	2	0	10
その他	1	0	1	1	0	1	0	1	0	5

【その他の内容】

- ・部活動の地域移行
- ・自治会内にある集合住宅居住者とのコミュニティのあり方

その他、研修会に関するご意見がありましたらご記入ください。

【主な意見】

- 元日の地震以降、防災の重要性を感じています。「自助」をもっと高め、近所の方とつながりを持ち、日々、防災意識を高めていきたいと思った。
- 能登半島地震の発生により避難所が開設されたことで、問題点が見えたこともあり、活発な意見交換ができた。
- 他区の活動の様子や内容を知ることができて参考になった。
- 防災士として若い女性委員2人が登壇していたことが刺激になりました。
- 分科会では他区の委員と交流できて良かった。
- 分科会での意見交換は活発でとても良かったが、全体共有の発表がグループAのみだったので、まとめが弱かった。
- 時間配分を考えて議論をコントロールできるように、分科会の司会等の役割は事前に決めて打ち合わせした方が良いと思う。
- 分科会や全体共有で話し過ぎる人が多いため、タイムキーパーが必要。
- 分科会はそれぞれが好きなことを話していただけて、もう少しテーマを絞るとよかったのでは。
- 区単位の取組事例だけでなく、自治会単位の取組の中から有効事例の発表があってもよい。
- 話し合いの目的を共有したうえで、分科会が進むとよいと思った。
- 全体共有の付箋が見えない。

第9期振り返り資料の方向性について

1 概要

本資料は、各区自治協議会における2年間の活動を振り返り、取組の成果と課題を次期委員へ引継ぐことを目的に毎期末作成しているもの

2 全体構成

見出し		記載内容	
例 年 作 成 部 分	1	はじめに	2年間の活動・取組の方向性
	2	取組内容・成果・課題	①全体会について ◆会議運営、建議要望事項、区委員研修会などにかかる取組、成果、課題を記載 ②部会・提案事業について ◆各部会の所掌分野、審議内容、運営上の工夫、提案事業の目的及び名称を記載 ※提案事業については、事業評価書を添付するため、 <u>成果・課題</u> は記載しない
	3	おわりに	各区の次期委員へ特に引き継ぐべきこと
	4	事業評価書	2年分の提案事業の実績・成果・課題
検 討	5	会長会議からの引継ぎ事項	自治協全体の活動を振り返り、次期の活動指針となる引継ぎ事項を巻末にまとめたもの

3 検討事項

- ①第9期振り返り資料に、会長会議からの引継ぎ事項を盛り込むか
- ②盛り込む場合、どのような内容で作成するか

※過去の引継ぎ事項は下記のとおり

期	引継ぎ事項	関連テーマ
第8期	区自治協議会の活動・運営における課題解決に向けた情報共有（委員アンケート、部会での意見交換内容）	新総合計画策定
第7期	新型コロナウイルス感染症による区自治協議会の諸課題に関する情報共有について	新型コロナウイルス
第6期	区自治協議会のあり方検討・制度の見直し	新潟市区自治協議会 条例の一部改正
第5期	区自治協議会のさらなる活性化について ～「地域代表としての役割」を果たすための委員の心構え～	地域代表としての 役割の徹底
第4期	地域（区）における自治の深化に向けて（区民との協働） ～区自治協議会とのさらなる協働の推進について～	合併建設計画の終了

令和6年度各区自治協提案事業一覧表

区	事業名等	事業概要等	弾力的運用
北 区 (計 2,400千円)	めざせ防災力向上！Ⅱ (800千円)	区民一人ひとりが、防災について関心や意識を持つきっかけをつくり、防災活動への理解を深めるためにさらに充実した取組みを行い、地域全体の防災力向上を目指します。 ※「北区防災かるた」を作成するために、絵札と読み札を募集	
	ボランティアはじめの一步 (800千円)	定年退職後の人や地域活動に興味はあるが一步を踏み出せない人が活動を始められるように後押しするとともに、幅広い世代がボランティア活動に関心を持つような社会貢献意識の醸成を行います。また、地域活動の担い手を育て、活動そのものの継続・発展を図ります。 ※講演会、ワークショップを開催	
	北区 魅力発信事業 (800千円)	区民等が北区の自然・食・文化等の魅力に触れ、理解を深める企画を実施し、区の魅力の発信・交流人口の拡大を図ります。 ※福島潟文化祭でトークセッション「潟の食文化を語る」を開催予定 その他、潟料理や食材の試食など	
東 区 (計 3,000千円)	区自治協議会提案事業 (3,000千円)	区自治協議会委員で構成する専門部会において、令和5年度に実施した「東区民意調査」の結果を踏まえつつ、各分野における身近な課題を洗い出し、地域の課題解決や活性化につながる取組を提案・実施していきます。令和6年度は各部会において「防災」「子ども食堂」「エリア紹介」をテーマとする取組を実施します。	
中央区 (計 2,000千円)	区自治協議会提案事業 (2,000千円)	区自治協議会が地域の課題解決や活性化につながる取組を提案し、深掘り調査や効果検証するためのモデル事業などを実施します。自治協委員で構成する専門部会において、各分野における身近な課題を洗い出し、取組テーマを決め、課題解決を図っていきます。 ○第1部会：SNSを活用して古町・本町エリアの食の魅力を発信する「にいがた推しメシプロジェクト」を実施。 ○第2部会：能登半島地震を受けてコミ協・施設管理者へのアンケートを実施。講演会等を開催予定。 ○第3部会：鳥屋野潟の活用イメージ図を作成。公開フォーラムを開催予定。 ○第4部会：若い世代をターゲットに中央区の食文化や歴史を認知してもらうきっかけとなるよう、学生と連携して区内老舗取材し、紹介リーフレットを発行予定。	
江南区 (計 5,000千円)	江南区魅力発掘・発信プロジェクト (1,000千円)	区内への来訪者増加、関係・交流人口の拡大に向けて、地域の魅力を掘り起こし、発信するなど、まちの活性化につながる取組を実施します。	
	多世代交流“みらい”プロジェクト (1,000千円)	子どもから高齢者まで、多世代が交流する事業を検討・実践することで、コミュニティの維持・向上と、暮らしやすい“みらい”の地域づくりにつなげます。	
	誰でも安心して安全に暮らせるまちづくりプロジェクト (1,000千円)	すべての人々が安心して暮らせるよう、防犯、防災、交通安全、福祉などの分野での啓発活動を通じ、安心安全・防災意識の向上を図ります。	
	地域課題解決サポートプロジェクト (2,000千円)	地域の課題解決やコミュニティの維持・向上につながる地域主体の取組を支援します。 連携団体：区内地域コミュニティ協議会	○
秋葉区 (計 6,130千円)	きらめき未来プロジェクト (3,400千円)	「きらめく」秋葉区に向けて、地域の様々な課題の解決につながる事業を区内の団体から募集して、区自治協議会が協働しながら、地域の人材を発掘し、継続的に取組が進められるよう支援していきます。また、コミュニティ未来ビジョンで策定したアクションプランの事業化を募集し、その実現に向けて支援していきます。 連携団体：区内地域コミュニティ協議会	○
	生活交通の検討と防災講座 (800千円)	秋葉区の公共交通が抱える課題を把握するため、アンケート調査を行い、問題を解決するための方策の検討や他地区の事例を研究します。また、激甚化する自然災害から身を守るための防災講演会の開催と中越地震被災地の視察研修を行うことで防災への備えを考えるきっかけとします。	
	Akihaおとな大学 (370千円)	秋葉区の特徴や史跡・旧跡、魅力ある歴史を学んでもらうことで地域への愛着や興味関心をさらに高めるとともに、学びを次世代に引き継ぐ、未来につながる主体的な学びの機会とします。	
	コミュニティFMを活用した自治協議会PR事業 (800千円)	コミュニティFMを活用し、自治協議会の活動やかかわら版「あきはくはつものがたり」のPRを行います。	
	秋葉区ひな・お宝めぐり (760千円)	秋葉区の新春行事として区民協働による「つるし飾り」を区内事業所や保育園、幼稚園、小中高校などから制作協力いただき、区内のコミュニティセンターや公共施設などで展示します。区内はもとより区外からの人の流れを生み出し、各コミュニティ協議会や商店街、地域の活性化に繋げていきます。 連携団体：区内地域コミュニティ協議会	○

区	事業名等	事業概要等	弾力的運用
南 区 (計 5,500千円)	防災意識啓発事業 (550千円)	防災意識の醸成を目的に、自治協議会主催のイベント「南区味わい市場」において防災関連ブースを出展し、啓発に向けた活動を実施します。	
	きれいなまち美南区クリーンアップ 月間事業 (450千円)	区民の美化意識の醸成を目的に、10月に強化月間を設けて、南区全体で清掃活動を実施します。	
	南区家族ふれ愛事業 (550千円)	家族を大切にすることを醸成することを目的に、11月に「家族ふれ愛」をテーマとした絵画・川柳展を開催します。	
	夏休みの宿題サポート事業 (450千円)	世代間交流の場の創出と子育て家庭の負担軽減を目的に、地域人材を活かして7月下旬の夏休みに子どもたちの学習サポートを実施します。	
	南区おいしいもの満載お宝探訪事業 (450千円)	南区の食の魅力発信と六斎市の賑わい創出を目的に、南区の農産物や地域の商店の飲食物が並ぶ「南区味わい市場」を六斎市に合わせて9月に開催します。	
	産業・伝統・味覚 南区3セットツアー事業 (550千円)	南区の魅力発信と交流人口の拡大を目的に、区内の企業や文化施設への見学・訪問と、旬な農作物などが味わえる日帰りバスツアーを10月に実施します。	
	南区まちづくり活動サポート事業 (2,500千円)	南区のまちづくりや活性化を目的に、南区の地域活動団体等を対象に4団体の提案事業を採択し、事業の実施を支援します。 連携団体: 区内地域コミュニティ協議会等	○
西 区 (計 3,600千円)	防犯事業 (600千円)	各種犯罪被害防止に向けて活動を行います。 ・防犯講演会の開催(11.16開催) ・越後線各駅で近隣の高校の生徒会と協働し、自転車盗難防止のキャンペーンを実施(7~10月) ・警察と連名のポイ捨て防止看板の作成し、西区各自治会、町内会、コミ協などに配布	
	支え合いの大切さ普及事業 (600千円)	・支え合いの大切さを広めるきっかけとして、あいさつ運動を実施します。 ・また、地域の団体や事業者へ、のぼりや広報媒体を配布したり、運動への協力を呼び掛けたりして西区内での水平展開を目指しています。 →地域の連携団体: 区内のコミ協・自治会・小中学校など →連携事業者: (株)イオンリテール[予定]	○
	西区の魅力発掘事業 (600千円)	西区を好きになって住み続けてもらえるよう、西区の様々な魅力を広く周知する活動を実施します。 ・「第2回 私の西区自慢 写真大募集」(フォトコンテスト)の実施 ・西区の魅力を体感するバスツアーの実施(フォトコンテスト参加を促す撮影会も兼ねる) ・交通に関する勉強会の実施(検討中)	
	地域の防災力向上事業 (400千円)	地域の防災力の向上に向けて、抱えている課題などを明らかにし、解決方法を検討します。 ・防災ワークショップの開催(予定)	
	西区アートフェスティバル (1,400千円)	①踊りやパフォーマンスで西区を元気づけること ②アート活動に取り組んでいる団体等に発表の場を提供すること ③大学などと連携して学術・文化豊かな西区の魅力を発信することを目標に、西区で活動する踊りを中心としたアート活動団体の発表や西区に関わるアート作品の展示を行う。	
西蒲区 (計 3,000千円)	防災意識の高い、活力あるまちづくり (1,000千円)	防災や教育、スポーツなど複数の分野が一堂に会するイベントを開催することで、「観光とスポーツ・レクリエーションのまち」「人の和でつながる安心・安全なあたたかいまち」を目指します。 ※R6は「減災」に関する事業を実施予定 ※その他、3部会合同イベントを開催予定 【学びと体験でつながろう にしかんライフフェス田(た)】 <概要> 日時: 令和6年10月19日(土)10時~15時 会場: 城山運動公園 内容: 各部会の所管する分野のテーマに応じた「学べる・体験できる」ブースを設置し、西蒲区の生活に関するフェスとして3部会で合同開催するイベント。	
	支え合いと助け合いの気持ちにあふれるまちづくり (1,000千円)	支え合い・助け合う心を育成するための啓発事業などを行い、「人の和でつながる安心・安全なあたたかいまち」を目指します。 ※R6は支え合いの大切さについて、考えてもらうきっかけを作る事業を実施予定	
	地域の交流を促進し、人と人があたたかくつながるまちづくり (1,000千円)	各地域で行われているイベントへの参加や協力を通じて、様々な地域への理解と交流を深められる仕組みづくりを行うことで、「人が行き交い、にぎわいと活力があふれるまち」を目指します。 【にしかん応援隊(ボランティア制度)】 <概要> 地域のイベントにおけるスタッフの人手不足の解消と地域内外の更なる交流促進に向けて制度設計し、R6スタート。 コミ協が応援隊を募集→市HP、LINE、区Facebookで周知→市民がそれを見て、ボランティアに行きたいイベントへ申し込み(直接コミ協へ申し込み) ※R6は当制度のPRに関する事業を実施予定	

令和6年度 会議体設置状況一覧表

		北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区
会議の呼称		本会議	全体会議	全体会議	本会議	本会議	全体会	本会	本会議
部会	1	地域づくり部会 商工業、農業 大学などの連携 道路、土地利用 公共交通 防災	第1部会 ・コミュニティ (地域活動、市民活動) ・防犯・防災・交通安全 ・行政運営	第1部会 ・賑わい創出 ・交流人口 ・都市機能 など	まちづくり部会 ・道路 ・公共交通 ・産業振興 ・コミュニティ	第1部会 ・土地利用 ・水と緑・農業 ・環境・観光 ・産業・商店街 ・コミュニティ	第1部会 ・公共交通 ・防犯・防災 ・環境 ・建設・都市計画	第1部会 ・防犯・防災 ・自然環境 ・住環境	総務部会 ・防犯・防災 ・公共交通 ・教育 ・文化、スポーツ
	2	福祉教育部会 健康、福祉 子育て 教育 協働 防犯、交通安全	第2部会 ・福祉・子育て ・教育・生涯学習 ・文化・スポーツ	第2部会 ・協働 ・子育て・教育 ・健康・福祉 ・防災・防犯 ・生活環境 など	環境・教育部会 ・生活環境 ・教育・生涯学習 ・文化・スポーツ	第2部会 ・防犯・防災 ・健康・医療 ・福祉・住環境 ・生活基盤・生活交通	第2部会 ・健康・医療 ・福祉 ・教育 ・地域・男女共同参画	第2部会 ・健康・福祉 ・文化・スポーツ ・教育	保健福祉部会 ・保健 ・福祉 ・生活環境
	3	自然文化部会 環境保全 自然環境活用 観光交流 文化・スポーツ 浸水対策	第3部会 ・商工業・農業・観光 ・住環境(公害、ゴミ、公園) ・都市交通・都市景観 ・自然環境	第3部会 ・水辺 ・緑化 など	安心安全部会 ・防犯・防災 ・交通安全 ・地域医療 ・福祉	第3部会 ・協働・男女共同 ・地域 ・行政運営 ・教育 ・文化・スポーツ	第3部会 ・産業 ・観光 ・文化 ・スポーツ	第3部会 ・産業 ・区の魅力発信 ・交通	まちづくり・産業部会 ・まちづくり ・農業 ・商工業 ・観光
	4	総務部会 ・協議会の運営 ・自治協議会だよりの編集 ・協議内容の検討	東区自治協議会 広報紙編集部会 ・東区自治協議会だよりの編集	第4部会 ・歴史・文化 ・産業 ・まちなみ など	広報紙発行特別部会 ・江南区自治協議会だよりの編集	広報部会 ・秋葉区自治協かわら版の編集 ・コミュニティFMを活用した自治協のPR	広報部会 ・南区自治協だよりの編集	広報紙特別部会 ・自治協議会広報紙の編集	広報部会 ・西蒲区自治協だよりの編集
	5		東区自治協議会 提案事業検討部会 ・自治協提案事業の連絡調整・検討	中央区自治協議会 だよりの編集部会 ・中央区自治協議会だよりの編集	総務特別部会 ・突発的な地域課題への対応 ・自治協の運営に関する事務	秋葉区ひな・お宝めぐり部会 ・秋葉区ひな・お宝めぐりの企画・実施		アートフェスティバル特別部会 ・西区アートフェスティバル企画・実施	調整部会 ・正副会長、 正副部会長(常任部会) による部会間調整
	6								
運営会議 (2役レク等)			2役レク	総務運営会議		運営会議	2役レク	運営会議	
	※総務部会に対応	全体会議における ・方向性の検討・確認 ・協議内容の検討・確認	・会長・副会長・事務局 による全体会議の 事前打合せ	※総務特別部会に対応	全体会議における ・方向性の検討・確認 ・協議内容の検討・確認	全体会議における ・会議内容の確認 ・会議終了後に振り返り	・議事の調整	※調整部会に対応	

は、常設部会(各委員がどこかに所属)
 は、特別部会(代表委員によるものや、希望委員によるもの)
 は、運営会議(代表委員によるもの)
 ●は、区独自の特色ある事項や事業(部会の所管分野)